

# 東京都大田区を対象とした大田クリエイティブタウン研究会の取り組み その5

## Achievements of “Ota Creative Town Unit” in Ota-Ward, Tokyo Part 5

岡村 祐\*・川原 晋\*・野原 卓\*\*

Yu Okamura Susumu Kawahara Taku Nohara

### 摘 要

本稿は、首都大学東京が横浜国立大学及び一般社団法人大田観光協会とともに取り組む産学連携組織「大田クリエイティブタウン研究会」の平成25・26年度（2013・14年度）の成果をまとめたものである。3・4回目となる「おおたオープンファクトリー」では、エリアの拡大、工業以外の地域内主体との連携強化、国内類似プログラムとのネットワーク化などを実現することができた。また、オープンファクトリーを契機として誕生した「くりらぼ多摩川」では、モノづくりのまちのまちづくりを推進する拠点として、多くの主体を巻き込み創造的活動が行われている。さらに、報告書、学位論文、国際学会への論文投稿など、世の中にそれらの成果を広く発信することができた。

### I. はじめに

本稿は、岡村ら（2011, 2012, 2013, 2014）に続き、首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域が横浜国立大学及び一般社団法人大田観光協会等との産学連携の「大田クリエイティブタウン研究会」を組織し、東京都大田区を中心に取り組んでいる実践的研究について、2013年度及び2014年度の成果を報告するものである。特に、第3回及び第4回の工場一斉公開イベント「おおたオープンファクトリー」の企画、「くりらぼ多摩川」の運営、さらには研究成果の発信について述べる。

既報のとおり、大田クリエイティブタウン研究会は、平成21年の結成以来、モノづくり（産業振興）、まちづくり（コミュニティ・空間形成）、シティプロモーション（観光振興）各分野の統合的アプローチによりモノづくりのまち東京都大田区の活性化・再生に取り組んできた。これまで2011年に発行した『大田モノ・まちBOOK2011』のなかで提起した「大田クリエイティブタウン構想」に基づきプロジェクトを実践しているが、近年はそれらを足がかりに、他の産業都市や地域内各種団体とのネットワークを構築し、情報の共有や

協働体制の構築へ展開している。

### II. おおたオープンファクトリーの企画

#### 2.1 第3回おおたオープンファクトリー

オープンファクトリーとは、ある特定のエリアにおいて、期間限定で複数の工場を公開し、見学・体験プログラムやツアーを提供し、モノづくり及びモノづくりのまちを地域内外にアピールするイベントのことである。東京都大田区においては、東急多摩川線沿いの下丸子・矢口エリアを中心に、大田クリエイティブタウン研究会と地元工業団体である工和会協同組合から構成される「おおたオープンファクトリー実行委員会」を組織し、第1回の2012年2月4日に続き第2回を12月1日に開催してきた。

第3回は、2013年10月26日に開催予定であったが、台風接近によりやむなく延期の決断をし、翌年2月15日に代替開催をすることとなった。しかし、不運は重なり前日に大雪が降り、再び開催が危ぶまれたものの、規模を縮小し何とか開催にこぎつけた。

前回との大きな違いとして、これまで重視してきたツアーは、予約管理の手間が煩雑であるということと、各町工場独自のコンテンツが充実してきたことを理由に、本数を減らした。同時に、これまで一部の工場の見学において必要としていた事前予約も不要とした。

\*首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 (10号館)  
e-mail: okamura@tmu.ac.jp

\*\*横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院

一方、駅前のインフォメーションボックスに関しては、これまで沿線の下丸子駅のみ設置してきたが、武蔵新田駅にも増設した。さらに、地元商店街や神社との連携企画も実施し、地域への浸透を重視することとなった。

10/29の台風中止による  
延期開催決定！

**第7回産業観光まちづくり大賞・金賞受賞！**  
2014年2月15日(土)  
9:30～16:30

**おおたオープンファクトリー**  
おおたモノ語り～職人が一年で一番しゃべる日～

●工場オープン ●※予約不要  
約20社の工場が一斉オープンします！  
生で職人の技を見たり、話を聞くことができます！  
■参加方法  
東急多摩川線下丸子駅、武蔵新田駅の前のインフォボックスで  
赤いジャンパーを着たスタッフからマップをもらって、  
開いている工場を確認しよう。(参加費無料)

**イベントもチェック！**

●モノ・ワザトーク ●※予約不要  
10:00～10:50 ベテラン職人によるトークセッション  
13:00～13:50 若手職人によるトークセッション  
15:00～16:00 下町ボスレーのトークセッション  
■会場  
モノ・ワザラウンジ(本部)  
■参加方法  
当日会場にお越しください。(参加費無料)

●ツアー ●※当日受付  
●おおたオープンファクトリーについて知ってるのツアー  
工場の仕組みなどをおたオープンファクトリーの概要はもちろん、  
運送の仕組みなども分かる体験型ツアー。  
時間 13:30～15:00  
定員 10名  
●モノづくりのまちめぐりツアー  
大田・品川まわりのガイドの会によるまちの歴史なども学べるツアー。  
ガイドあり！  
時間 13:30～15:40  
定員 15名  
■予約方法(先着順)  
当日10:00より下丸子、武蔵新田両インフォボックス、モノ・ワザラウンジ(本部)にて受付(参加費無料)

●モノ・ワザギャラリー ●  
大田の町工場の職人が製造した一般向けの製品や、  
技術の中心のために作られたプロモーション作品、  
職人が趣味で作った作品などを展示・販売。  
■会場  
モノ・ワザラウンジ(本部)

●ものづくりたまご ●  
大田の技術を「ガチャポン」に！  
一回30円で楽しめます！  
今年も売切れ必至です。  
■設置場所(4か所)  
下丸子・武蔵新田両インフォボックス、  
モノ・ワザラウンジ(本部)、くらば多摩川

主催：おおたオープンファクトリー実行委員会(工研会協賛会×発注団体法人大田観光協会×管理大学東京×横浜国立大学×東京大学)  
後援：大田区、一般社団法人大田工業振興会、大田ブランド推進協議会、公益財団法人大田区産業振興協会、東京商工会議所大田支部、  
下丸子振興会、下丸子商工会、大田区商工振興会  
協力：東京急行電鉄株式会社、東急バス株式会社、ラジオニッポン大田放送局

図1 「第3回おおたオープンファクトリー (代替開催)」の  
チラシ



図2 大雪のなかの「第3回おおたオープンファクトリー」  
の様子(くりらば多摩川前)

## 2.2 第4回おおたオープンファクトリー

第4回は、晩秋の好天を期待し、2014年11月29日の開催とした。「ワザの縁、ひろがる」をテーマに掲げ、特に1) エリアの展開、2) 参画主体の拡大、3) 各種コンテンツの充実を目指した。

第一のエリアの展開に関しては、これまで過去3回の開催エリアであった「下丸子・武蔵新田駅周辺エリア」に加えて、区内本羽田、東糀谷にある2つの工場アパート(多数の工場が入居する施設)を対象とした。

その結果、参加企業は71社となり、前回の33から倍増となった。

第二の参画主体の拡大に関しては、区役所、市民団体、鉄道・バス事業者、商店街等、モノづくりを外側から支える様々な企業・団体の協力を得ることができた。イベント当日のスタッフとして、区民を中心に「モノづくり観光サポーター」として公募し、19名が各拠点や工場において接客・接遇に当たった。公開審査によるコンペ形式を採用した「モノづくりたまご」では、そのアイデアの応募から会場提供に至るまで、地元専門学校である工学院専門学校の支援を得た。武蔵新田の商店街では、商店街イベントである「ちょい呑みフェスティバル」を、まちが昼夜盛り上げられるようにと、オープンファクトリーと同時期の開催となった。その他、下丸子・武蔵新田駅周辺エリアと工場アパート間のバス輸送を支援してくれた東急バスや、既に人気企画として定着している「モノづくりのまちめぐりツアー」を提供している大田・品川まちめぐりガイドの会など協力を得た。

第三の各種コンテンツの充実に関しては、モノづくりの集積(コレクション)や連携(コラボレーション)を重視し、複数工程を経て製品(フライパン)を完成させる「仲間回しラリー」、加工技術を学びながら工場を巡る「職人の技スタンプラリー」、参加企業の紹介冊子を製本体験できるワークショップ「MY OTA BOOK」など、充実したラインナップを提供した。

**第4回  
おおた  
オープン  
ファクトリー**

【会場】  
東急多摩川線 下丸子駅・武蔵新田駅  
周辺エリア  
テナ/ウィング大田(大田区本羽田)  
OTAテクノビル(大田区東糀谷)  
【集合案内】  
東急多摩川線 下丸子駅・武蔵新田駅  
改札前インフォボックス  
※当日受付

2014/11/29(土)  
開催日時  
10:00～16:00

大田の工場を回ってつながろう！ 技の縁、ひろがる。

参加無料・予約不要  
※参加費、交通費は各自負担となります。  
最新情報はWEBで  
<http://www.ota-2.jp/otf/>

OTa OPEN FACTORY

図3 「第4回おおたオープンファクトリー」のチラシ

## OTA OPEN FACTORY 4th ワザの縁、ひろがる。

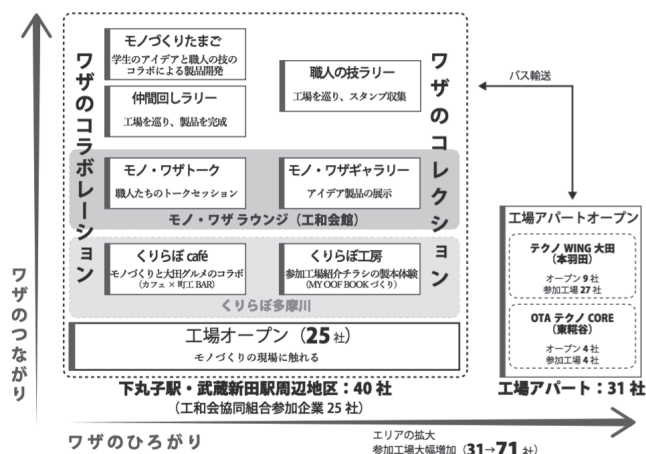


図4 「第4回おおたオープンファクトリー」の全体像（出典：大田クリエイティブタウン（2015）, p.22）

最終的には、参加企業 71 社のうち工場公開企業 38 社となった。また、企画を支えるスタッフも実行委員会メンバー以外に、上記の「モノづくり観光サポーター」19 名と学生 27 名を数えた。来場者は実数ベースで 2000 名を超え、過去最大を記録した。

## Ⅲ. くりらぼ多摩川の運営

「くりらぼ多摩川」とは、大田区矢口の工場長屋内にある旧工場・旧事務所部分をリノベーションした「モノづくりのまちのまちづくりづくり」を实践するための拠点施設である。2012 年 12 月開催の第 2 回おおたオープンファクトリー時に、「まちなか工場カフェ」として暫定利用したことを契機に、所有者との交渉、空間のデザイン・利用の計画・設計、改修工事を経て、2013 年 12 月 11 日に本格的にオープンした。その後は、年間を通じて様々な活動が行われている。

「町工 BAR」（主催：大田観光協会）では、職人やモノづくり関係者による話にお酒を飲みながら耳を傾ける。ほぼ毎月末に開催され、毎回 30 名程度が集う人気企画となっている。「くりらぼワークショップ」（企画・運営：横浜国立大学）は、大学と町工場が協力して、モノづくりワークショップを行う。「モノづくりのまち巡りツアー」（画・運営：大田・品川まちめぐりガイドの会）では、町歩きツアーの拠点として利用されている。「こどものためのモノづくり体験塾」（NPO 法人 C&P）では、子供を対象とした工作教室が行われている。

このように運営体制としては、大田クリエイティブタウン研究会メンバーのほか、大田区観光課が事務局を務め、日常的に企画を行っていくパートナーとして

の諸団体が「くりらぼ多摩川運営委員会」を組織している（下図）。

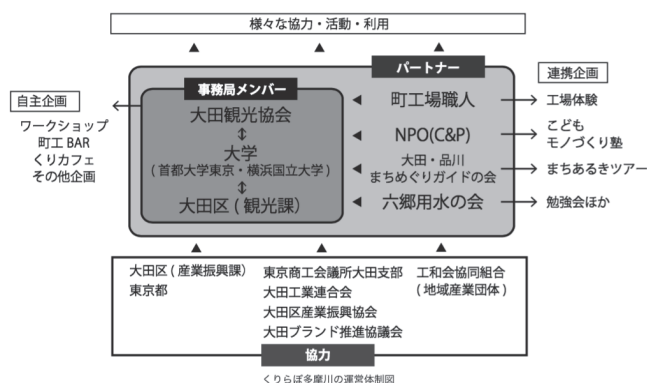


図5 くりらぼ多摩川の企画運営体制（出典：大田クリエイティブタウン（2015）, p.44）

## Ⅳ. 研究成果の発信

### 4.1 大田モノ・まち BOOK2014

本稿で述べてきたおおた「大田クリエイティブタウン構想」、「おおたオープンファクトリー」、「くりらぼ多摩川」が最初に提案されたのが『大田モノ・まち BOOK2011』であった。今回、過去 3 年間の実践の展開を踏まえて、『大田モノ・まち BOOK2014』を発行した。『2014』では、実践プロジェクトとしての「おおたオープンファクトリー」と「くりらぼ多摩川」の概要、近年全国的な流れとして育まれてきた「オープンファクトリーネットワーク」に関する研究や、工場系ストックの状況に関する研究結果、そして「大田クリエイティブタウン構想 ver.02」を掲載した。

### 大田モノ・まち BOOK 2014

これからの「モノづくりのまちづくり」

大田クリエイティブタウン研究会

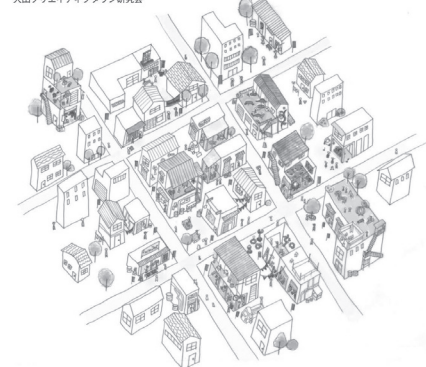


図6 「大田モノ・まち BOOK2014」の表紙



## 4.2 学術論文・学位論文の発表

学術的には、国内外へ発信が重要な課題である。国内では、2014年9月に神戸大学で開催された日本建築学会大会において、「創造拠点の挿入・くりらぼ多摩川—大田クリエイティブタウン構想と工場長屋の改修を通じて—」を発表し、日本建築学会建築デザイン発表テーマ部門「未来のまちや」優秀賞を受賞した。

また、2014年度には当研究会の取り組みをベースに、首都大学東京及び横浜国立大学において、2編の修士論文が発表された。

その他、2015年8月にマレーシア・ジョホールバルにあるマレーシア工科大学で開催される国際学会APSA (Asia Planning Schools Association) へ2編の論文を投稿した（本稿執筆時点では発表済み）。

## V. 研究会の今後の展望

おおたオープンファクトリーは第4回において、エリアの拡大、主に一般区民から構成される「モノづくり観光サポーター」の結成、地元専門学校との連携、類似イベントを実施する国内他地域とのネットワーク形成など、めざましい発展を遂げることができた。今後は、さらなるエリアの拡大やオープンファクトリーを企画運営する持続可能な組織のあり方を検討していく必要がある。

一方、くりらぼに関しては、2015年度をもって大田区からの助成金の第1期が終わる。モノづくりやまちづくりの地域活動拠点として、今後どのように展開していくべきか、関係主体と協働して将来構想を練っていく必要がある。

その他、大田クリエイティブタウン構想において最重視してきたモノづくりを基盤としたまちづくりの中心的役割を担う「公」「民」「学」による「センター」の設置は、いまだ実現への道筋は見えてこないが、上記のプロジェクトの成果も踏まえて、粘り強く活動していく必要がある。

### 謝辞

大田クリエイティブタウン研究会の調査研究活動に関わる経費は大田観光協会からの委託費、ならび科学研究費補助金（基盤研究C、研究課題番号：15K06350、研究題目：地域の産業特性を活かしたエリアコンバージョン手法の構築と展開可能性に関する研究／基盤研究C、研究課題番号：24560740、住工混在地区におけるエリアコンバージョンを通じた地域マネジメント手法に関する研究）によるものです。ここに記して感謝の意を表します。

### 参考文献

- 大田クリエイティブタウン研究会 2015. モノ・まち BOOK2014 これからのモノづくりのまちづくり.
- 大田クリエイティブタウン研究会 2012. モノ・まち BOOK2012 ～第1回おおたオープンファクトリー成果報告書～.
- モノづくり観光研究会 2011. モノ・まち BOOK2011 ～クリエイティブタウン大田をめざして～.
- 岡村祐・川原晋・野原卓 2014. 東京都大田区を対象とした大田クリエイティブタウン研究会の取り組み その4. 観光科学研究 No.7 首都大学東京観光科学域: 53-57
- 岡村祐・川原晋・野原卓 2013. 東京都大田区を対象とした大田クリエイティブタウン研究会(旧モノづくり観光研究会)の取り組み その3. 観光科学研究 No.6 首都大学東京観光科学域: 177-182
- 岡村祐・野原卓・川原晋 2012. 東京都大田区を対象としたモノづくり観光研究会の取り組みその2：首都大学東京大学院観光科学域におけるPBL報告. 観光科学研究 No.5 首都大学東京観光科学域: 185-190
- 岡村祐他 8名 2011. 東京都大田区を対象としたモノづくり観光研究会の取り組み：首都大学東京大学院観光科学域におけるPBL報告その1. 観光科学研究 No.4 首都大学東京観光科学域: 123-127
- 野原卓・岡村祐・川原晋・阿部なつみ 2014. 創造拠点の挿入・くりらぼ多摩川—大田クリエイティブタウン構想と工場長屋の改修を通じて—. 日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集: 36-37
- 豊田純子 2015. 工業集積地における地域活性化手法としてのオープンファクトリーに関する研究. 首都大学東京大学院修士論文
- 阿部なつみ 2015. 潜在的地域構造を活かしたエリアリノベーションの可能性に関する研究—大田区住工混在地域を対象として—. 横浜国立大学大学院修士論文